

第3回茅野市地域創生総合戦略進行管理有識者会議

開催日時	平成29年11月6日(月) 午前10時から正午まで		
開催場所	8階大ホール		
公開・非公開の別	(公開)・非公開	傍聴者の数	0人
議題及び会議結果			
発言者	協議内容・発言内容(概要)		
	会議次第		
	1 開会		
	2 挨拶		
	3 報告事項		
事務局	(1)前回の会議録について ————— 説明 ————— ※質問・意見は特になし		
事務局	(2)追加資料について ————— 説明 ————— ※質問・意見は特になし		
事務局	4 協議事項 (1)これまでの会議で未回答のご意見について ————— 説明 ————— ※質問・意見は特になし		
事務局	(2)メール・FAX でいただいたご意見について ————— 説明 —————		
事務局	(3)茅野市地域創生総合戦略の改定について ①茅野市人口ビジョン 将来展望人口について ————— 説明 —————		
委員	将来展望人口を上方修正させるというのは、推計値よりも国勢調査の結果が多かったということか。		
事務局	そのとおりである。人口は減ってはいるものの、推計値よりも減少幅が小さかった。		
委員	その原因はどういったものか。		

事務局	<p>想定よりも社会増減がプラスになり、特に高齢の方の転入が多かった。人口は増えるものの、高齢化率が大きくなっていくことが見込まれる。</p>
委員	<p>年少人口が前回の推計よりも減っている。経済的な支援が他市町村と比較して不満がでてきている傾向があるので、やはり行政の支援を見直す必要があると思う。</p>
事務局	<p>保育園での多子世帯の軽減や学校児童の要保護世帯への減免策の充実に取り組んでいる。経済的に苦しい世帯が増えてきていると思われるので、市全体で考える大きな課題であると考えている。民間ではこども食堂なども行われており、行政も一緒にやっていけることなどをどんぐりプランの策定中で検討していきたい。</p>
事務局	<p>医療費の支払いについては、平成 30 年 8 月診療分から制度改正を行う予定である。窓口の負担が 500 円になり、効果が期待できると考えている。健康福祉という面では、地域包括ケアという考えのもと、0 歳から 100 歳まで地域で支えるまちづくりの施策と行政施策を上手く絡ませながら取り組んでいきたい。</p>
委員	<p>総合計画審議会でも同じような質問がでている。従来の人口フレームは社会基盤やインフラを形成する上での指標であり、その人口に対してどれぐらいの財源を投入して整備していくかというものであったが、この将来展望人口は総合戦略の中でもそれ自体が大きな目標指針となっており、目標の人口や三世代区分が達成できるかどうかという指標である。これが達成できない場合には、更に人口増対策をどういう風に打っていくかを考える大きな指標である。人口を増やすためには、社会増や自然増を図る必要があるが、自然増については、出生率を上げることが必要であり、茅野市の独自施策だけではなく、やはり国の政策の働き方改革や女性の社会進出、そのほかの出生率向上のための様々な制度等とタイアップしながら、茅野市の施策をどう展開していくかということだと考えている。社会増については、子どもをこれから産む若い世代を茅野市にどうやって呼び込んでくるかが大きなポイントになる。若い世代が転入してくれば、出生数が上がり社会増と自然増が期待できる。総合戦略を基に、市域内に働く場所をつくることや、魅力的な環境を作って都会から若い世代を呼んでくるということを行い、それでも将来展望人口が達成できない場合は、更に重点的に財源を投入していくことになる。</p>
事務局	<p>委員の意見は、見える形での子供を増やす策を講じたらどうかと思うものだと思う。アンケートからも経済的負担が大きな要因になっている。一番は働く場所で十分な給料がもらえればストレートな解決策になると思うが、そうもいかない現状である。経済的な負担軽減のため、いわゆるバラマキ的な政策だけではだめだと思う。茅野市は子育てしやすいまちの要素はあると思う。それを総動員して、まちづくりしていくことを第 5 次総合計画の策定など常に意識していきたい。</p>
委員	<p>基本的に仕事があることが大事だと思う。お金が稼げればその問題が解決できると思う。今、働き方改革で仕事の仕方が変わってきているが、それに対</p>

	<p>する受け皿が遅れている印象がある。女性が在宅で働く方法や、新しい働き方など、これからどんどん出てくる。仕事をつくるということにビジョンをシフトすると、茅野市は東京から3時間以内で来られる場所なので、都内の人がここで新しく創業できる可能性がある場所であり、名古屋からも3時間で来られ、両方から3時間の場所であり、新しい働き方改革ができるという印象がある。最近、東大や京大を卒業した人でベンチャー企業を起こした人と話す機会が多く、その中でチャットワークという会社が、新しい働き方、テレワークでの働き方というのを神戸で始めた。シリコンバレーから帰ってきた人と地場産業を結び付けて、新しい産業を生み出すことをしている。例えばAIを活用した産業など費用がかからないので、地元の企業と、地元の企業全体の状況を知っている金融機関を組み合わせる新しい産業を生み出し、活性化させていくことも良いと思う。</p>
事務局	<p>本当の意味での働き方改革までは、茅野市ではまだ手が届いていないという実感がある。コワーキングスペースのワークラボ八ヶ岳がベルビア内にできるので、そこで女性の働き方の支援や、創業についても産業振興プラザのアドバイザーの企業訪問などを通じて小規模の事業者を中心に支援していきたい。</p>
委員	<p>金融機関として地元企業に関わるなかで、生産性が良くないということが話題に上がる。働き方改革で残業時間の縮小や、効率性の向上が課題にないっている。そういった場面でのAIの活用について非常に感心を持っている。そういったものから、新しい産業が発生してくれば非常にいいと思うし、いち早く諏訪圏で取り組めればいいと思う。</p>
事務局	<p>②諏訪東京理科大学の公立化と連携強化による雇用創出、若者の地元定着について      _____ 説明 _____      ※質問・意見は特になし</p>
事務局	<p>③改定のスケジュールについて      _____ 説明 _____      ※質問・意見は特になし</p>
委員	<p>5 その他      世界をみたときに、イギリス、ドイツ、フランスなどヨーロッパで日本のような人口問題を聞いたことがない。職員が視察に行って日本ではないところから学んで知見を高めることも必要だと思う。</p>
事務局	<p>外に目を向けることは非常にいいと思う。具体的な展開については庁内で相談したいと思う。</p>
委員	<p>茅野市が参考にするならイスラエルだと思う。イスラエルは合計特殊出生率が3.0を超えている。移民を受け入れながら、出生率を高めるということは参考事例になると思う。農業とIoTを組み合わせた施策も参考になる。イス</p>

ラエルに行ってみるのもいいと思う。

6 閉会